

知らなきや損する

帰ってきた!!

歯

の は な し

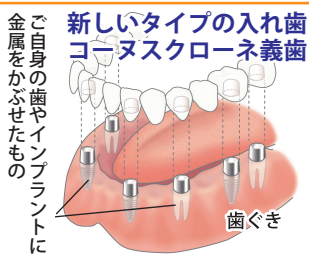


埼玉県羽生市 木村歯科医院 HPにてバックナンバー掲載中!!

⑬② インプラント専門医の勧めるコーヌスクローネ義歯②⑦

コロナ禍で不要不急の外出が制限された当時、「痛くもない歯の治療は後回しで良い」という風潮がありました。しかし、噛める事が免疫を上げる事につながり、予防も口の中の悪い菌を減らす事から免疫を上げるのに有効だったのです。当時、大阪市長が「口を開けて治療する歯科がなぜクラスターを続発させないか」と疑問を呈していたのを思い出します。では、コロナも静まったと言われる今はどうでしょうか？もちろん、コロナについ

てもまだちらほら聞きますが、通年のインフルエenza等が猛威を振るうなど、結局のところコロナ禍であろうがなかろうが、常に病原菌とは戦わなければならぬのです。コロナ以降、歯科業界は消毒や滅菌の概念が進



み、治療道具の管理や滅菌に加え、室内の空気や使用する水まで滅菌するため、高額な機器をそろえなければならず、下手すると消毒だけで赤字になる事もある時代です。しかし、だからといって安心という事ではありません。各々が免疫力を上げなければ、何をやってもしとたび未知のウイルスが発生したら、またコロナのような時代がいつでも再来するのです。特定のウイルスでなくとも、体に害のあるものは体の免疫機構が排除する

はずなので、何が起るかは分からないものに対しては自分の免疫力を上げる事が大切です。そこで、まずは口から始めてみませんか？

歩いて咬める人が長生きなのには訳があります。昔の子どもは泥まみれで遊び、決して清潔とは言えない境遇で、免疫力を獲得してきたように思えます。今は文房具ひとつとっても抗菌のものがあっても免疫が付きそうもない清潔な物ばかりに囲まれています。確かに清潔で奇麗かもしれませんが、免疫力は低下する気がします。だから「汚くしろ」とは言えませんが、口の管理をして免疫力を上げる事は出来るのではないのでしょうか？また、不潔な口腔内ではむしろ病気になるってしまします。予防とともに一生口の管理ができる入れ歯にする

ことも、免疫力だけではなく健康に寿命を延ばすという点でも重要です。インプラントで噛めるという状況が年齢とともに管理が難しくならないように、私のお勧めするコーヌスクローネ義歯は、

取り外しなのによく噛めて口の管理ができる点では、さすがドイツ式は良く考えてあると思っています。インプラントにした方もインプラントが嫌な方も一考の余地がある治療法だと思います。



院長の無料相談

木村匡司院長がお口の相談に応じます(要電話予約)。

歯の無料健康講座

次回は、4月13日(土)、5月11日(土)
15時30分から約60分

通話料無料 フリーダイヤル 0120-255-418